



キャンパス/広島県広島市 学生数/2,092人 創立/1994年
 建学の基本理念/科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学
 学部/国際、情報科学、芸術
 大学院/国際学、情報科学、芸術学、平和学

CASE STUDY

しくみ化、ルーティン化、日常化で学修者本位の文化をつくる

広島市立大学

教育プログラムの評価を学生に依頼する「カリキュラム・コンサルティング」。徐々に広まりつつあるこの取り組みを2021年度に導入した広島市立大学に聞く。



理事補佐/理事長室 副室長 教育基盤センター センター長補佐・講師

山咲 博昭

やまさきひろあき ●2010年関西大学入職。教務事務担当の後、(公財)大学基準協会へ出向を経て自己点検・評価を担当。2019年広島市立大学に兼任。2022年より教学企画オフィス・オフィス長補佐、大学評価オフィス副オフィス長を兼務。2023年より現職。

供給者には見えにくい 学生の実態や思い

本学は29年前、地域の中で独自の学問を、当時珍しかった国際、情報科学、芸術の3学部で開学しました。近年は競合が増え、学生募集も気を抜けない状況に。入学者が多様化し、質保証も本格化した2019年度に、まずは学生の実態を把握すべく、学生調査に着手しました。

調査からは、成績などの従来の教務データにはない学生の実態、思い、要望がうかがえました。特に自由記述の回答にはわれわれが思いもよらないコメントがあり、供給者である教職員目線での学生調査の限界を実感しました。たとえ学修到達度を把握できても、DP未到達の資質や能力があった際、果たして教職員だけで問題点や改善方法を見いだせるのか——そんな

学生コンサルタントが 教員の心を動かす原動力に

現在、構築中の内部質保証体制では、各学科・研究科の教育について、所属学科の教員・他学科教員・学生の三者が評価を行い、改善に活用します。このうち自学科の4年生から直接意見を聴取するのが、カリキュラム・コンサルタントです。2021年度から情報科学、芸術の2学部で開始。学生は4年間のカリキュラムを振り返って是非も含めて評価し、課題のある授業については改善策も提案します。最後は各意見に同意する人数を集計し、定性情報を定量情報化、つまり各意見の重みまで測れるよう工夫しています。

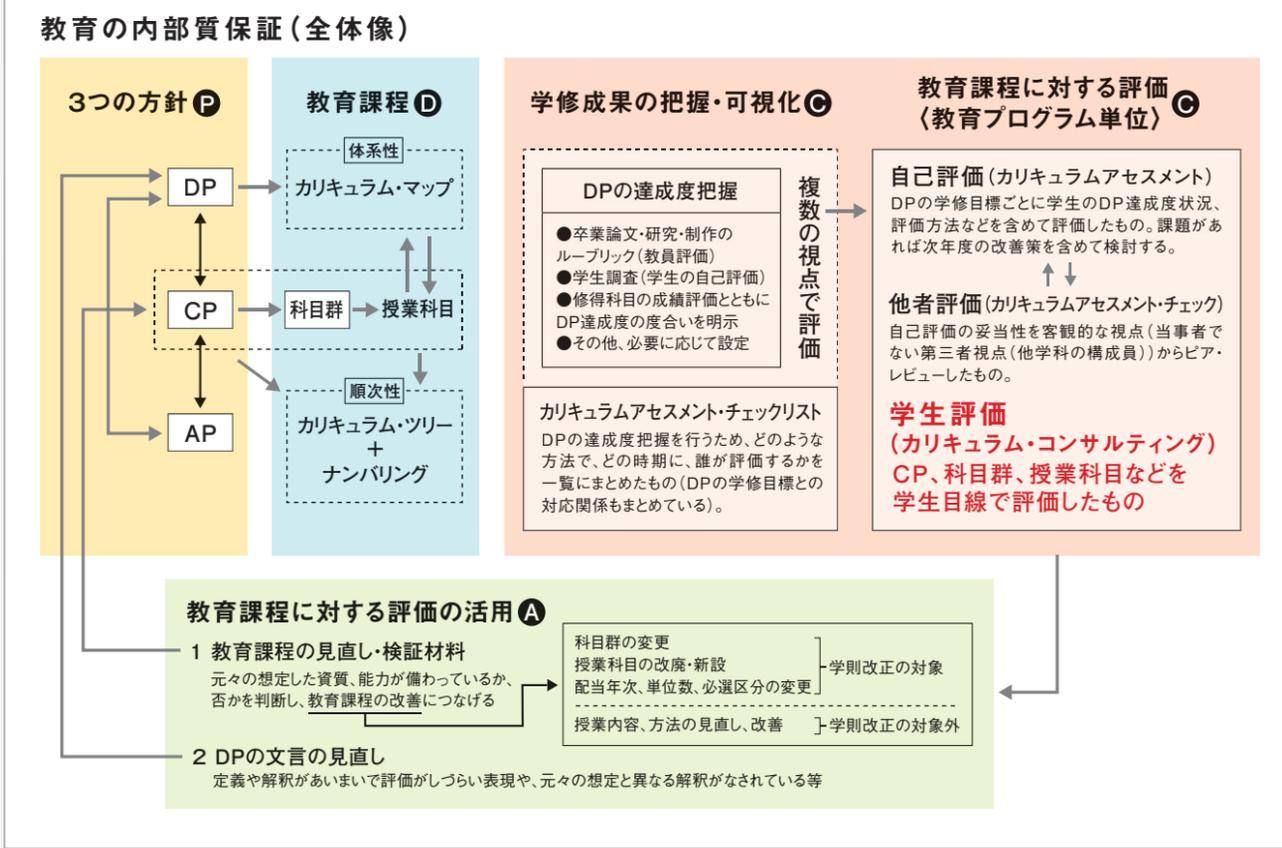
卒業間際の学生が、後輩が受ける教育をよくしようと熱心に取り組む、この4年でそれができるほどに成長した姿は、立ち会う教員

たちの胸を打ちます。教務データやアンケート結果だけだったときと比べて、教員の教育改善への動きが早く、進級要件の変更や内容が重複する科目の扱いの検討などが次々と始まりました。情報科学部では自発的に新規プログラムの受講実態を把握すべく、2年次末にも追加でコンサルティングを実施しています。

ここに至るまでに私が心がけたのは、個人に張り付かない全学的、持続的なしくみにすることです。IIR関係の規程整備、執行部や学部長対象の研修、全構成員向けの研修、実務担当者用のワークショップと、段階的に、学内の理解とルーティン化を進めてきました。次の課題は、学生へのフィードバックです。これを怠ると、声を上げて動いてくれない大学だと思われかねません。本年4月発足の教育基盤センターで、他大学の事例を参考に共有方法を検討中です。

今、本学では、学生の声や力を業務改善・改革に生かす動きも始めています。業務のDX化に学生が参画したり、総務室が予算編成のエビデンスとして学生調査の結果を使ったり。このような動きが日常になれば、学修者本位の文化として根付くことでしょう。

DP 多様な文化・価値観を尊ぶための、人間、社会、自然、平和に関する幅広い教養と知識・技能を有している (知識・技能) 社会的課題の解決ないしは社会との関わりの中での創作活動に向けて主体的に取り組む姿勢を有している (主体性) 6項目中、2項目抜粋



注目 教育改善につながり、学生の教育機会にもなるカリキュラム・コンサルティングのコツ

学生によるカリキュラム・コンサルティングは、卒業予定者が、在学中に履修した科目等について、評価と助言を行う取り組みだ。広島市立大学では、学科の自主性を重んじ、学生の数や選び方は各学科に一任。2022年度に4学科合同で行った情報科学部は、学生約40人、教員7人が集まり、90分弱で実施した。学生には、事前説明を受けたうえで、教員への中傷は避け、改善してほしい点には理由と改善案を添えるように依頼。グループで話す前に個人で意見を記入させる、所属学科教員は進行に関与しないなど、発言しやすくなる工夫を凝らしている。4年間を一気に振り返り、全ての科目、出来事から意見をピックアップするので、挙がってくる意見は各学生の印象に強く残ったものばかりだ。学生にとっても、大学で学んできたことの意義を振り返り、その後のキャリアを考える機会になっている。「用意された環境を享受するだけでなく、よりよい環境をめざして主体的に働きかける学生の自治活動は、高等教育ならではのもの。社会に出てからも役立つ経験になる」(山咲氏)。

カリキュラム・コンサルティングの進め方

- 実施単位 学科・専攻 対象 4年生 実施時期 11~1月
 質問項目 共通科目/専門科目/オンライン授業/学生生活
- 学生が発言しやすいように、所属学科の教員は進行に関与しない。
 - 個人が発言しやすいように、「個人ワーク」→「グループでの共有」の順に進める。
 - 改善を要望する点については、学生自身が考えた改善方法も提示してもらう。
 - (グループによっては)自グループでの意見の共有後、他のグループの意見を見て気づいた点を追加で掲出している。
 - 複数人が同意する意見も出るため、個々の学生へのインタビューよりも代表性がある意見が得られる。



*Between No.305「学生のための内部質保証」P.19参照

取材・文/ 児山雄介